

校務改善と個人情報取扱いハンドブック作成への試み

ー上越市教委、学校現場職員そして支援組織の連携した取り組みー

新潟県上越市教育委員会 指導主事 川住 晴彦
kawazumi@jorne.or.jp

新潟県上越市立城北中学校 事務主幹 二見 恵美子
futami@jorne.or.jp

NPO法人 上越地域学校教育支援センター 常務理事 曾田 耕一
soda@jorne.or.jp

キーワード：校務の情報化、教育ネットワーク、グループウェア、文書管理システム、個人情報保護

1. はじめに

学校が解決すべき課題は、年々増加する一方である。当市でも、勤務時間全体における事務処理の時間が多いと感じている職員が多く、ICTを利活用し、校務の負担感を少しでも解消することが必要である。

また、学校は児童生徒の数多くのデジタルデータを含めた個人情報を保有し、扱っている。教育の情報化が進む中で、これまで以上にこれらの慎重な取扱いを求められており、学校教育に対する信頼に支えなくてはならない。

これらを解決するための上越市教育委員会、学校現場職員そして支援組織の連携した取り組みについて、紹介する。

2. 上越市の教育の情報化の概要

2.1 上越市教育ネットワーク

上越市教育委員会では、「地域の子どもは地域で育てる」を合い言葉に、市内のすべての子どもたちにICTを利用した教育環境を整備し、「分かる授業」や学力の向上を提供できるよう、上越市、市内の小・中学校、上越教育大学、私立高校、県立高校、NTTなどと一緒に、平成8年から学校教育専用の「上越教育ネットワーク (JoRNE)」を構築し、これを利用している。

平成18年10月現在、すべての小・中学校のすべての教室・校長室・職員室・保健室・事務室で校内LAN整備が完了しており、52小学校(54校中)と22中学校(22校中)で、高速インターネット回線の利用ができる環境整備が完了している。

2.2 教員用コンピュータ

上越市内の小・中学校の教職員は、これまで私有コンピュータを業務に使用していた。私有コンピュータは、管理が難しく、児童生徒の個人情報など、多くの重要な情報を扱う教職員が使用することには、大きな問題があった。

そこで、上越市教委では、児童生徒の機密情報を扱う教職員が使用するコンピュータについて、平成17・18年度の2か年で小・中学校教員用に公用コンピュータ約1,300台の整備を完了した。

このコンピュータは、ガイドラインを遵守し、セキュリティを確保することで、教室等に持ち込んで授業にも活用することも目的としている。

3. 校務改善の取り組み

3.1 上越市学校教育支援システムの概要

「上越市学校教育支援システム」とは、小・中学校並びに教育委員会事務局に配備している教育ネットワークを利用したグループウェアシステムであり、NPO法人・上越地域学校教育支援センターとの協働事業で教職員の校務改善を目的に開発と運用を推進しているものである。ネットワークを通じて、市教委と学校間あるいは複数の学校間での情報の共有化、一元化を図ることで、効率的でより付加価値の高い情報管理を行うことを目的とした。

このシステムの主な機能は、次の通りである。

- *基本システム …………… 「掲示板」「スケジュール」「職員動向」「学校日誌」など職員間の情報共有と校務の円滑な推進に活用。
- *学校基本情報システム …… 職員の分掌などの情報、児童生徒名簿など、必要に応じて情報を検索・閲覧。
- *成績管理システム …………… 主に中学校の成績管理。評価規準やモジュール制など、細かい設定が可能。
- *文書管理システム …………… 学校と市教委の文書連絡に活用。文書収受の効率化と確実な文書管理。
- *備品管理システム …………… 学校備品の管理と廃棄処分の管理。教育総務課と連携。
- *会計管理システム …………… 学校配当予算の執行状況の管理。教育総務課と連携。
- *保健管理システム …………… 検診結果の集約・統計資料作成、お知らせカードの作成など。出欠状況処理と連動したインフルエンザ流行状況情報の提供 (Webでも閲覧可能)。
- *預かり金管理システム …… 保護者からの預かり金に関するデータを安全に管理し、金融機関と連携。

- *給食管理システム …………… 給食の実施予定や出納関係の管理。
- *おたよりシステム …………… 学校ホームページをブログ風にし、フォーマット選択で容易に更新可能。
- *PTAメールシステム …… 保護者や職員の緊急連絡や情報提供用のメール送受信。グループ送信も可能。

このうち文書管理システムは、事務担当者の発想を基に、平成 14 年に検討委員会が結成され、文書管理のシステム化と市立学校文書管理規程検討が行われ、制定された。様々な意見を基に工夫を凝らし改良を重ね、平成 16 年度から本格導入され、学校間及び市教委との文書の収受に関しては、事務作業の効率化に大きく貢献している。

各校がイントラネットで結ばれており、ブラウザを起動することでそれぞれのシステムを利用することができる。



おたよりシステムの画面

3. 2 上越市学校教育支援システムの改善と活用

教員用コンピュータの整備が完了したことで、上越市学校教育支援システムをより使いやすく改善し、活用することにより、校務の一層の効率化を図るとともに、今後、76 小・中学校が統一した事務及び校務を推進できるように取り組んでいきたいと考えた。また、教員用コンピュータ整備に多額の予算を投入したことで、校務の効率化や教育活動への効果が求められている。

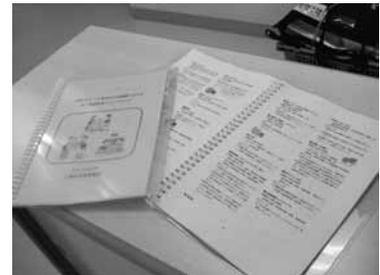
そこで、「上越市学校教育支援システム活用検討委員会」を設置し、システムをより使いやすくするための検討作業を進めていくこととした。学校教育課長が委員長となり、単年度ではなく継続的に開催しながら、校務や学校事務の効率化と簡略化を図っていくこととしている。具体的には、校長、教頭、教諭、養護教諭、事務職員、栄養職員などから人選し、委員会を編成し、それぞれのシステムについて現状と問題点からシステム改善を行い、各学校でどのように活用するかを検討し、各学校で活用していくよう働きかけていく。

4. 個人情報取扱いハンドブック作成の取り組み

4. 1 個人情報取扱いハンドブック作成の目的

個人情報の保護の重要性が高まっており、学校現場においてもこれまで以上に十分な配慮が求められている。平成 17 年 4 月の個人情報の保護に関する法律の施行以来、その取扱いについて苦慮する声が多く寄せられるようになった。

そこで、学校現場における個人情報取扱いについてのガイドラインを示すとともに、具体的な場面におけるマニュアルを作成することにより、職員に個人情報保護の趣旨を徹底させ、個人情報を適切に管理・運用できるようにすることを目的とし、『上越市立小・中学校及び幼稚園における個人情報取扱いハンドブック』を作成することとした。



ハンドブック

4. 2 個人情報取扱いハンドブック作成までの手順

ハンドブック作成にあたっては、学校の具体的な場面で個人情報を取り扱う際に活用できるものにして考えて、上越市教頭会（7 人）上越市事務研（11 人）からメンバーを選出して組織した。市教委からは、管理指導主事（全体統括、教育総務課・情報管理課・法務室等との連絡調整）と指導主事（ガイドライン作成、スタッフとの連絡調整）、必要に応じて関係職員が加わり、教育総務課長と学校教育課長から指導・助言を得ながら作業を進めた。

10 月下旬に事務研部会において担当指導主事と事務職員で打合せを行い、12 月に第 1 回特設委員会を開催した。その後は、メーリングリストを活用してデータや意見を交換しながら、作業を進めた。1 月と 2 月の特設委員会を経て作成を完了し、3 月上旬には PDF ファイルで全小・中学校及び幼稚園に配布し、各学校では今後の変更箇所について加除できるようにバインダー形式で作成し、職員に配布するとともに、研修を行った。

ネットワークを活用し、連携を図ることで、短期間で完成を見ることができた。なお、生駒市教委、前橋市教委、柏市教委からデータ及び資料提供していただいた。



ハンドブック作成委員会